

## 1-6 2018年の南極域の紫外線

南極昭和基地における2018年の紅斑紫外線量日積算値の月平均値（以下、月平均値という）を図1-15に示す。ここでは、参照値（1994～2008年の月別累年平均値）との比較として、参照値からの差が標準偏差以内のときを「並」、それより大きいときを「多い」、それより小さいときを「少ない」としている。南極昭和基地の2月の月平均値は、観測を開始した1993年以来、その月として最小値となった。これは、2月のオゾン全量が多かったことと日照時間の寡少が要因である。南極オゾンホールが発達する9月以降では全て並となった。

南極オゾンホールが存在する期間（8～12月）の南極昭和基地における2018年の紅斑紫外線量日積算値、オゾン全量及び全天日射量の推移を図1-16に示す。紅斑紫外線量日積算値は、8月以降、参照値（1994～2008年の累年平均値）付近で推移しているが、11月上旬から中旬はかなり多くなり、11月下旬以降は少なくなった。この変化は、概ねオゾン全量の推移（緑丸印）と逆相関で対応している。

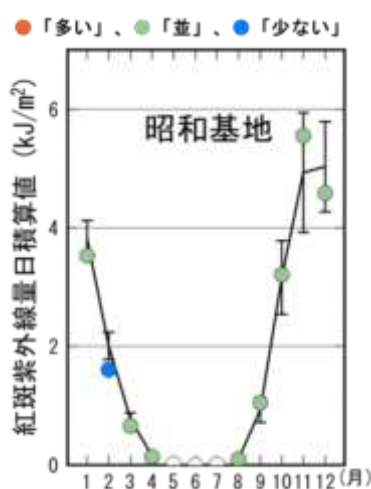


図1-15 : 2018年の南極昭和基地における紅斑紫外線量日積算値の月平均値

●印（図では橙、緑、青）は2018年の月平均値。実線は1994～2008年の月別累年平均値、縦線はその標準偏差。ただし、極夜前後（5～7月）は月別累年平均値を算出していないので、観測値を白丸で示してある。

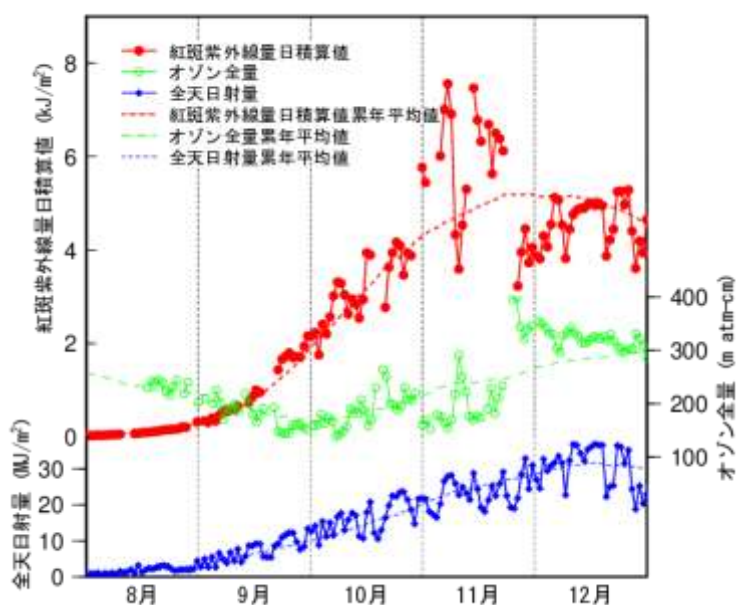


図1-16 : 2018年の南極昭和基地における紅斑紫外線量日積算値、オゾン全量、全天日射量

2018年の南極昭和基地における紅斑紫外線量日積算値、オゾン全量、全天日射量の観測値（実線）のほか、参照値として、それぞれの要素の1994～2008年の日別累年平均値の15日移動平均値（破線）を示す。